

国立文楽劇場モニュメントについて

谷崎潤一郎の文学碑は、国立文楽劇場の西側(堺筋側)に設置されていますが、東側(松屋町筋側)には、近松門左衛門「重井筒」より芝居づくしと言われる道行の一節を刻んだ文学碑が設置されています。

これらは、昭和 59 年に国立文楽劇場完成記念事業の一環として建立されたもので、それぞれには、江戸時代、人形浄瑠璃の黄金期を築いた竹本座、豊竹座の紋章が刻まれています。

近松門左衛門

1653(承応 2)年に生まれ、1724(享保 9)年に死去。

浄瑠璃では、竹本義太夫、竹本政太夫等のため 100 篇を越す浄瑠璃を作り、歌舞伎では坂田藤十郎のために書いた 30 数篇の歌舞伎狂言を残すなど元禄歌舞伎の隆盛に尽力した。

元禄 16(1703)年、「曾根崎心中」が初演されると非常な好評を博し、世話物流行の第一歩となった。このあと、「国性爺合戦」「心中天網島」「女殺油地獄」など、次々に名作を発表し、浄瑠璃作者として、その生涯をおくった。